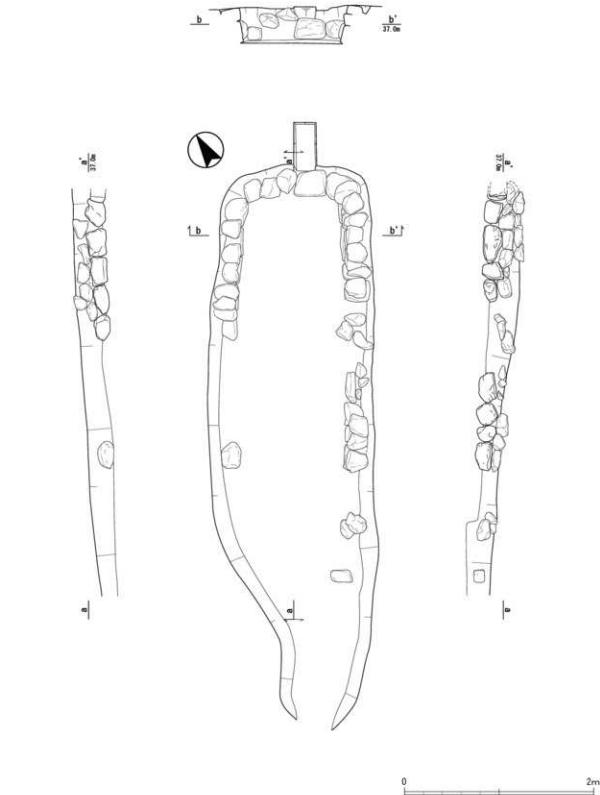
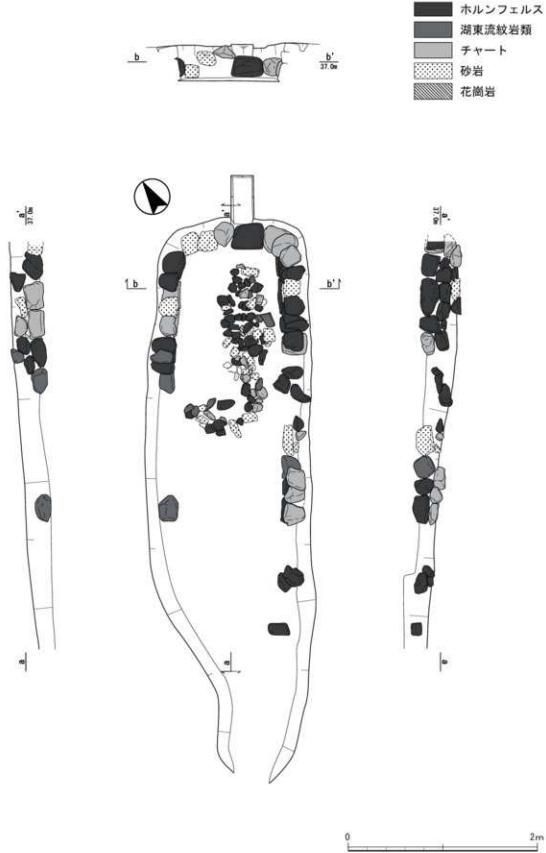


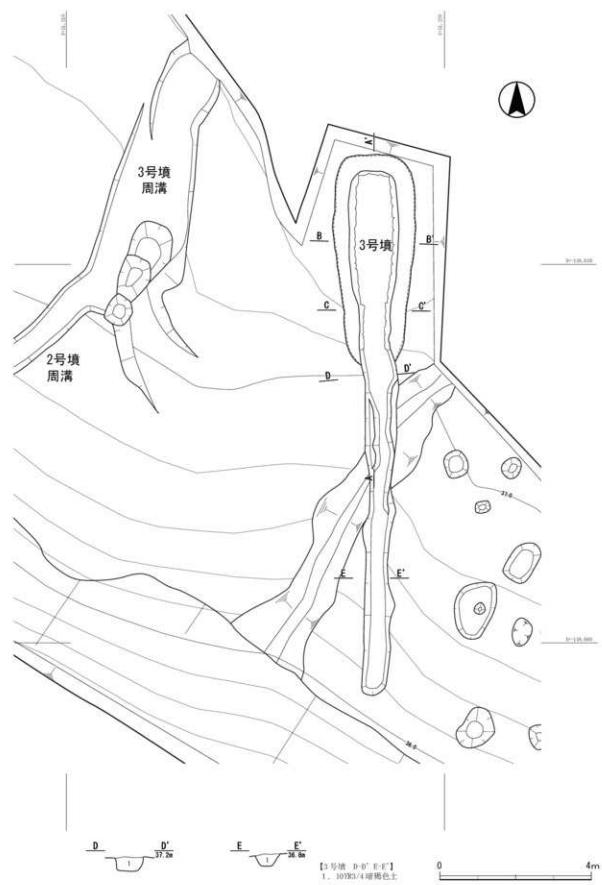
第18図 菅野2号墳 石室平面・断面図、遺物出土状況図 (1:50, 1:10)



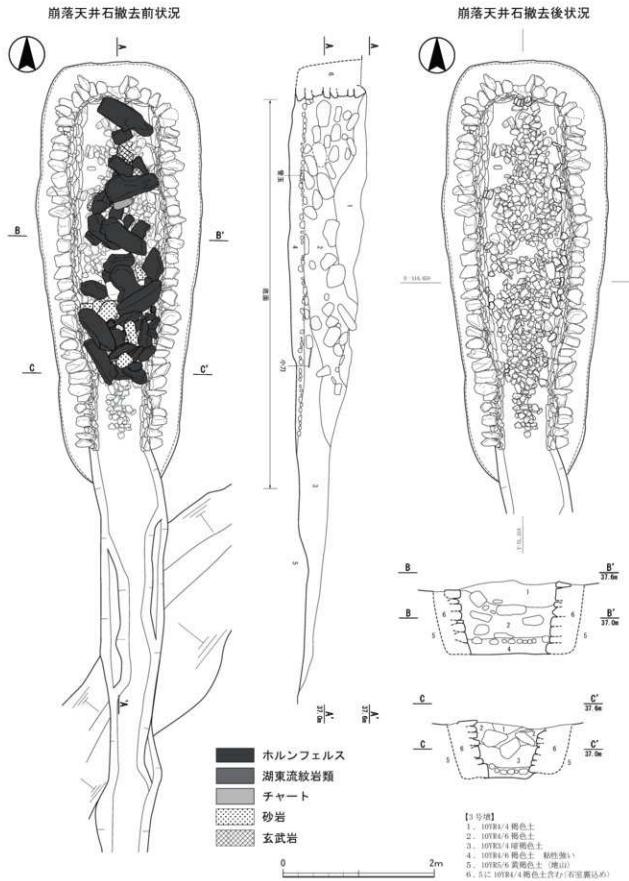
第19図 菅野2号墳 石室実測図 (1:40)



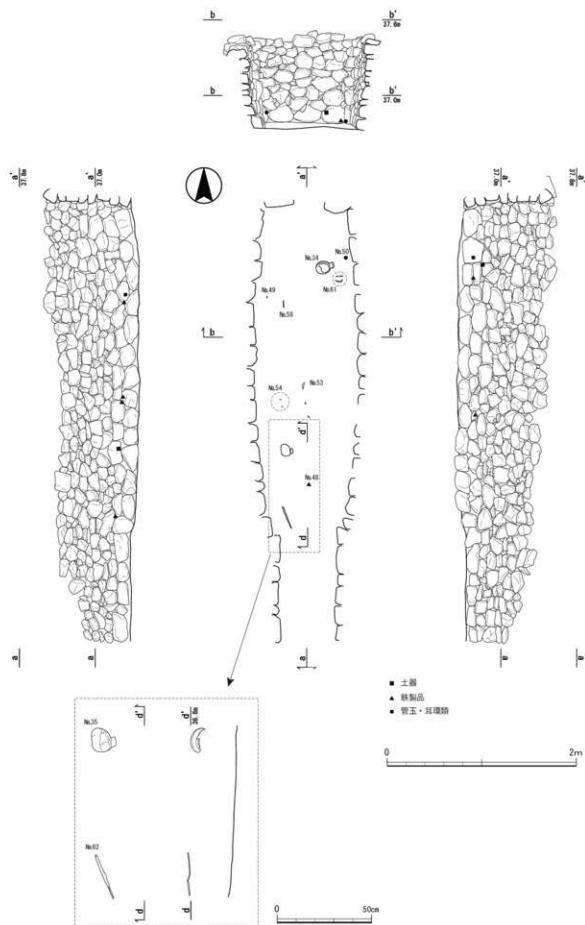
第20図 菅野2号墳 石室使用石材図 (1:40)



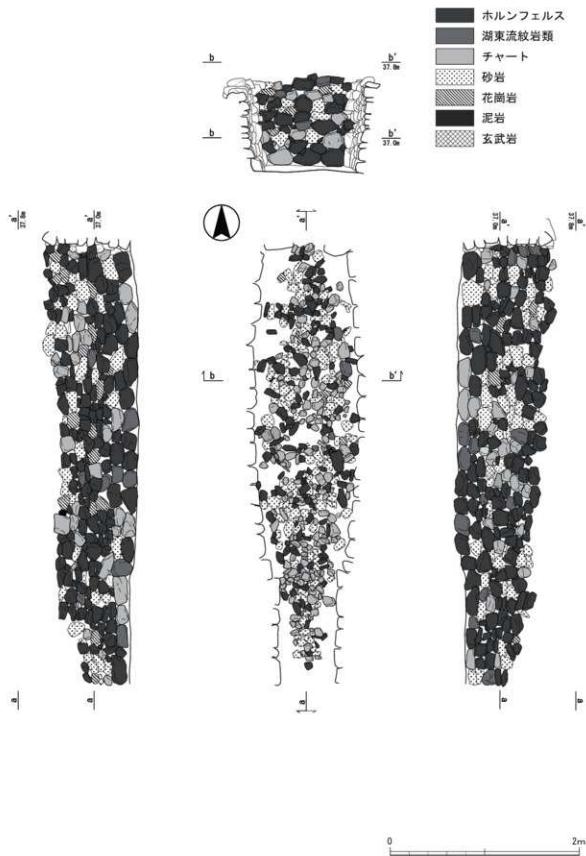
第21図 菅野3号墳 墓丘実測図 (1:100)



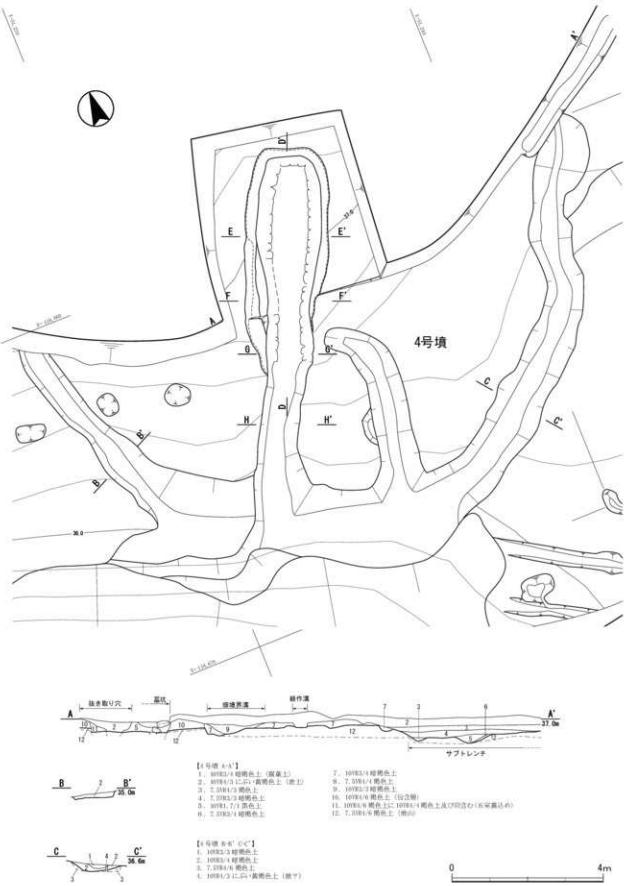
第22図 菅野3号墳 石室平面・断面図、天井石使用石材図（1:50）



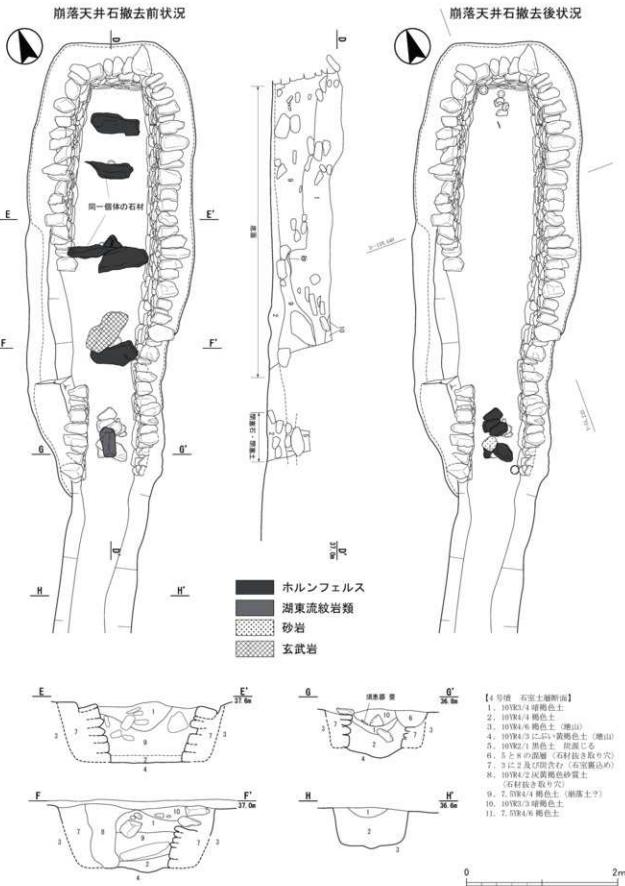
第23図 菅野3号墳 石室実測図、遺物出土状況図(1:40、1:20)



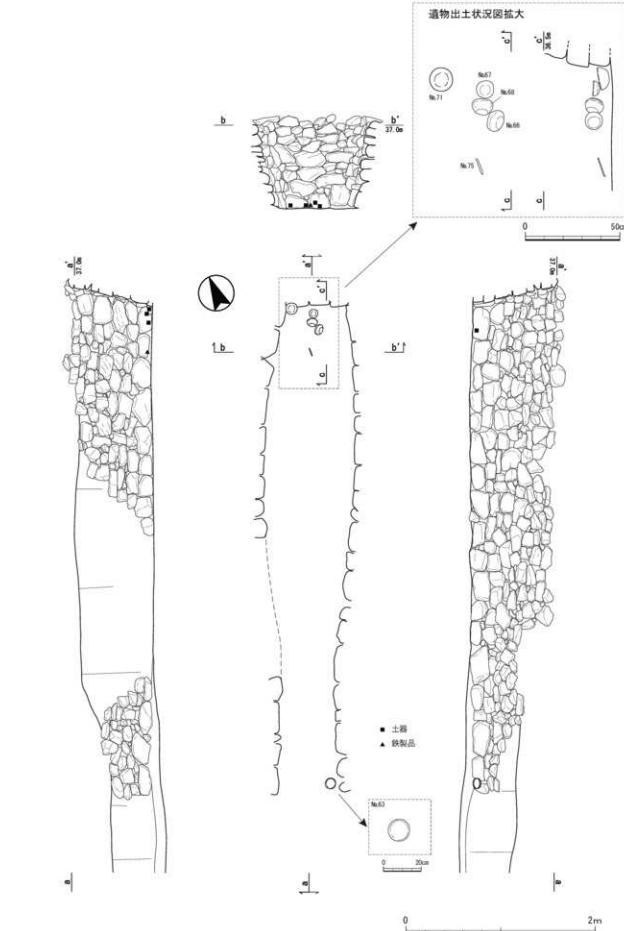
第24図 菅野3号墳 石室使用石材図 (1:40)



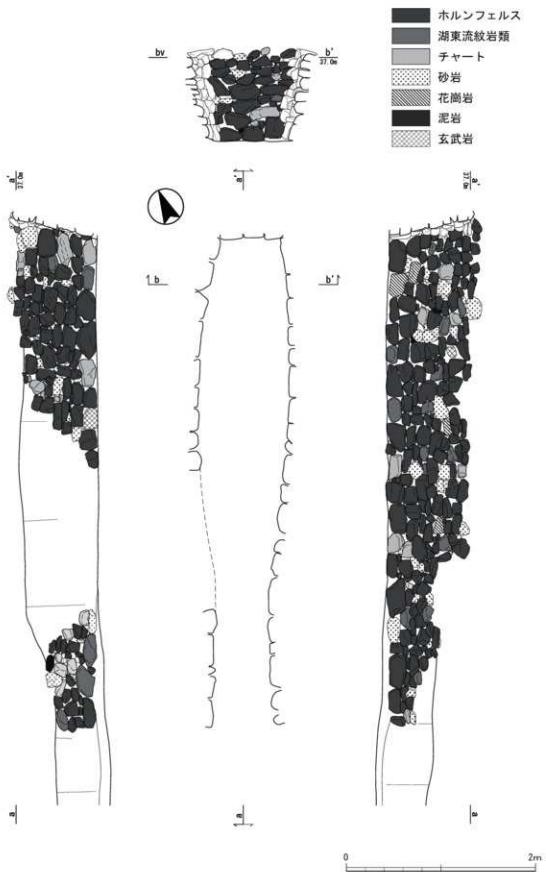
第25図 菅野4号墳 墳丘実測図 (1:100)



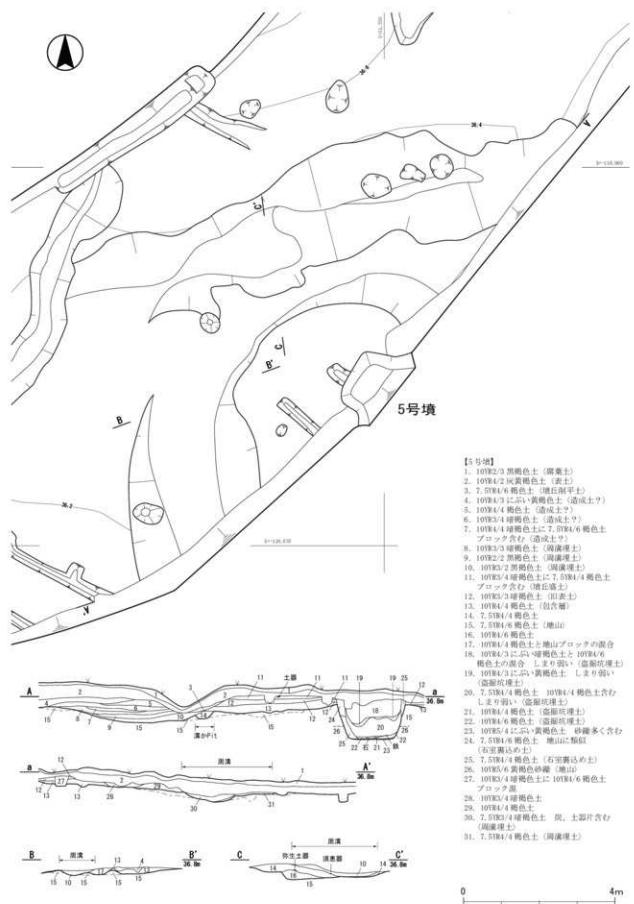
第26図 菅野4号墳 石室平面・断面図、天井石・閉塞石使用石材図 (1:50)



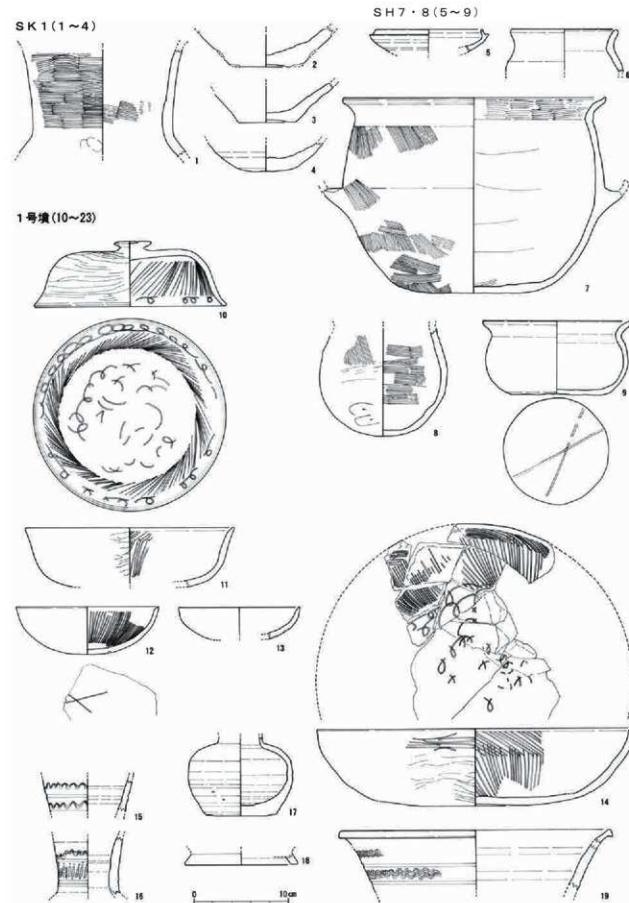
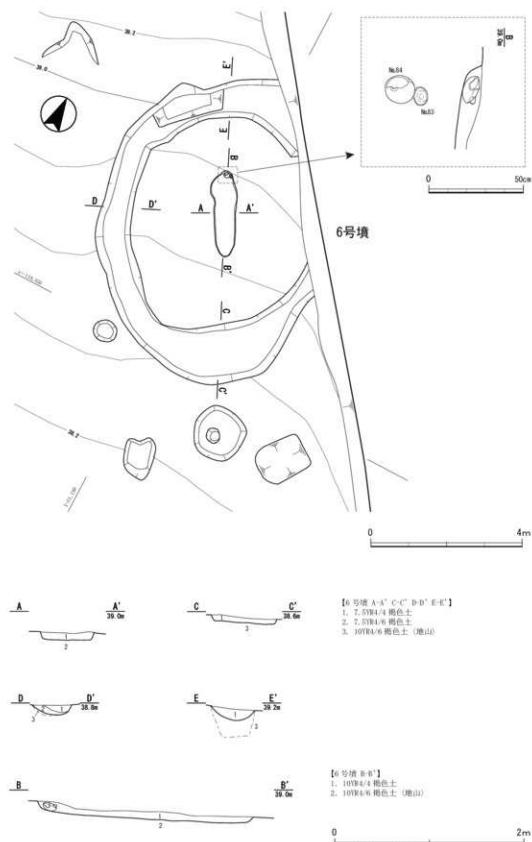
第27図 菅野4号墳 石室実測図、遺物出土状況図 (1:40, 1:20)



第28図 普野4号墳 石室使用石材図 (1:40)

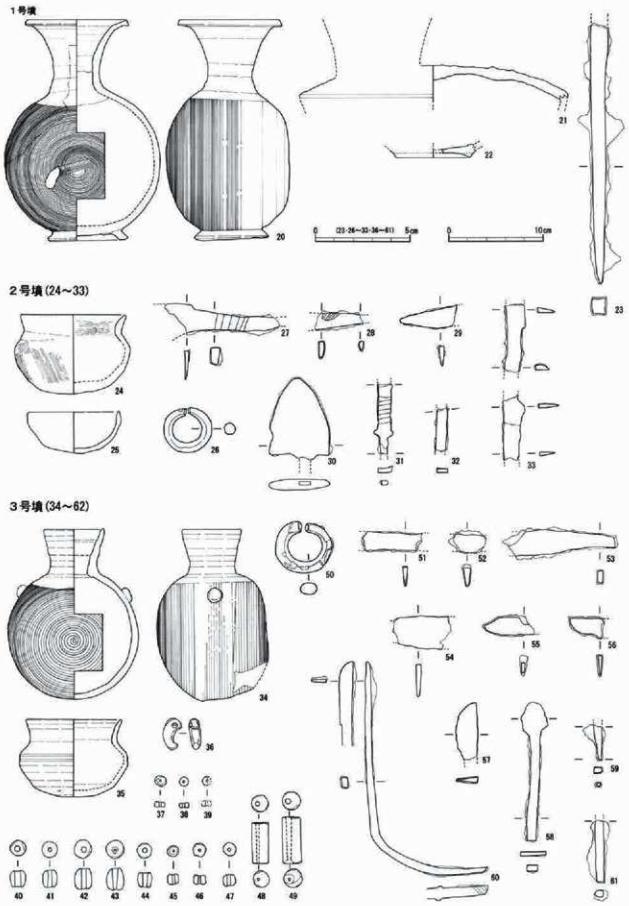


第29図 普野5号墳 墳丘実測図 (1:100)

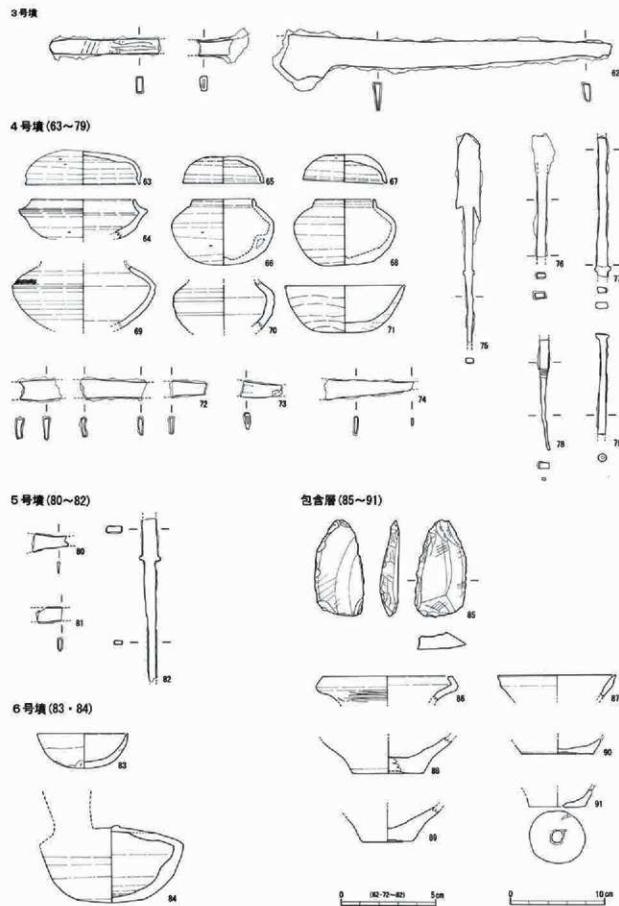


第30図 菅野6号墳 墳丘実測図、遺構平面・断面図 (1:100, 1:40, 1:20)

第31図 出土遺物実測図①(1:4)



第32図 出土遺物実測図② (1:4, 1:2)



第33図 出土遺物実測図③ (1:4, 1:2)

遺構 番号	構図 番号	規模(m)			時期	特記事項	出土遺物	遺物 報告番号
		長径	短径	深さ				
S H 7	8	4.8	1.5 以上	0.3	古墳時代	S H 8 上り新	土師器甕・鏡、須恵器杯身	5, 6, 9
S H 8	8	1.8	0.8	0.2	古墳時代	S H 7 より古	土師器甕・鏡、蓋	7, 8, 87

第2表 竪穴住居一覧表

遺構 番号	構図 番号	規模(m)			時期	特記事項	出土遺物	遺物 報告番号
		長径	短径	深さ				
S K 1	9	4.8	1.5 以上	0.1	弥生時代		弥生土器壺	1~4
S K 9	9	5.6 以上	4.5 以上	0.3	—			—
S K 10	10	3.5	3.1	0.35	—			—
S K 11	10	2.9	1.8	0.25	—			—
S K 13	10	4.4	1.6	0.2	—			—
S K 14	10	2.0	1.5	0.15	—		鉄津	—

第3表 土坑一覧表

遺構 番号	構図 番号	規模(m)			時期	特記事項	出土遺物	遺物 報告番号
		長さ	幅	深さ				
S D 12	10	13.0	1.7	0.25	—			—
S D 15	9	7.0 以上	1.1	0.2	中世		鉄製品	—
S D 16	10	10.6	0.6	0.15	—			—

第4表 溝一覧表

遺構 番号	構図 番号	形狀	規模(m)		内部主体 規模(m)	特記事項	時期	出土遺物	遺物 報告番号
			長径	短径					
1号填	11~16	方填	15.0	12.5	横穴式石室 石室全体(推定) : 5.3 最大幅1.5 高さ : 1.5 底面 : 不明、幅不明	中央に排水溝あり	7世紀末	土師器壺・杯、 桶、鉢、須恵器甕・瓶、壺、山茶瓶、 鉄製品	10~23
2号填	17~20	円填又 は方填	10.0 0.2	10.0 0.2	横穴式石室 石室全体 : 長4.1、 最大幅1.5 高さ : 長1.6、幅0.9 底面 : 長1.6、幅0.9	礎床あり	7世紀前半	土師器壺・桶、耳 環、鉄製品、石器	24~33, 85
3号填	21~24	円填?	12.0 0?	12.0 0?	横穴式石室(駒張型) 石室全体 : 4.6 玄室 : 長3.3、最大幅1.02 高さ : 長1.3、幅0.58	天井石の落下、 礎床あり	7世紀前半	須恵器壺・蓋、 桶、鉢、須恵器甕・瓶、 土師器甕・瓶、 鉄製品、耳環	34~62
4号填	25~28	円填	14.0	14.0	横穴式石室(駒張型) 石室全体 : 5.14 玄室 : 長3.7、最大幅0.96 高さ : 長1.46、幅0.55	天井石の落下	7世紀前半	須恵器壺・蓋、 桶、鉢、土師器甕・瓶、 鉄製品	65~ 88~90
5号填	29	円填	10.0	10.0	横穴式石室	奥壁部分のみ	7世紀 前半?	鉄製品	80~82
6号填	30	円填	6.0	6.0	墓坑のみ	7世紀 第3四半期	土師器壺、 須恵器甕・瓶	83, 84	

第5表 普野古墳群一覧表

報告 番号	実測 番号	出土 位置	測量標			測量標の特徴	地土	傾成	色調	残存 度(%)	備考		
			口徑	皮厚	根高								
1	17-5	SK1	普通土層	—	—	内エコノマック、剝離、根高、 砂利(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	20	黄褐色(2.5W3/4)				
2	14-2	SK1	普通土層	—	—	内エコノマック、剝離	中(5W7/6)	10	黄褐色(2.5W3/4)				
3	14-4	SK1 内宮下上層	普通土層	—	6.0	内エコナミック、根高	根(1~2mmの砂利含む)	良(7.5W7/6)	80	黒褐色(2.5W3/1)			
4	14-3	SK1	普通土層	—	6.0	内エコナミック、根高	根(1~2mmの砂利含む)	良(7.5W7/6)	80	黒褐色(2.5W3/1)			
5	22-1	b22 SHT	普通土層 根付	11.2	—	内エコノマック、 内エコロマック	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	10	黄褐色(2.5W3/4)			
6	14-1	b21 SHT 3'7"	普通土層	11.2	—	内エコナミック、 内エコロマック	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	10	黄褐色(2.5W3/4)			
7	15-1	b21 SHT 3'7"周辺	普通土層	27.5	—	内エナメル、ハケメ 内エバーハード、ハケメ	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(10W7/6)	60	黄褐色(2.5W3/6)			
8	16-3	SBR 菊穴	普通土層	—	—	内ハーフメ、ケルリ、根高 内エターナル、ナダ	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(10W7/6)	60	外側と内側にスス行 る			
9	16-2	SBR 菊穴	普通土層	15.5	—	内エコナミック、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(7.5W7/6)	90	外側底面にスス付着			
10	20-1	J5	1号墳 前斜坡 土層	20	—	内エナメル、 内エバーハード、 内エコロマック、根高	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	90	良(2.5W5/6)			
11	21-1	H5-55	1号墳 壁面上	土層	22	—	内エコナミック、 内エコロマック、 内エコナミック、 内エコロマック	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	10	良(2.5W5/6)		
12	18-2	J5-5	1号墳 前斜坡 土層	15	—	内エナメル、 内エコロマック、 内エコロマック、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	30				
13	18-1	J5-36	1号墳 前斜坡 土層	12.6	—	内エコナミック、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(7.5W7/6)	10	外側、朱彩あり			
14	19-1	1号墳 前斜坡 土層	13.3	—	8.1	内エナメル、 内エバーハード、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/6)	30	良(2.5W5/6)			
15	10-2	17	横溝 深溝 下層	—	—	内エナメル、 内エコロマック	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	10	傾1と同一側			
16	18-3	17	1号墳 深溝土層	—	—	内エナメル、 内エコロマック	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	10	傾1と同一側			
17	10-5 16-2	1号墳 黄土下	普通土層	—	7.6	内エナメル、 内エコロマック、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	70				
18	10-4	16-2	1号墳 黄土	—	—	内エナメル、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	70				
19	11-2 16-6	1号墳 上層	普通土層 金剛鏡引き出し	28.6	—	内エナメル、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	10	外側に自然縫から る			
20	1-1	15	1号墳 室内 土層	10.5	—	23.5 内エナメル、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	90	外側に自然縫から る			
21	13-1 16-3	1号墳 壁上層	普通土層 根付	—	—	内エナメル、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	10	外側に自然縫から る			
22	11-1	1号墳 室底土層	普通土層	—	—	内エナメル、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	10	外側に自然縫から る			
23	9-6	1号墳 深溝土層 割合	鉄製品 割合	—	7.8	内エナメル、 内エコロマック	根(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(5W7/2)	10	中段付着部分に自然 縫からている			
24	17-4	n27	2号墳 室内	土師器	11.1	—	内エナメル、 内エコロマック	中(0.1~0.2mmの砂利含む)	良(7.5W7/6)	80	根(2.5W5/6)		
25	18-4	n27	2号墳 室内中央 部	土師器	—	—	4.4	内エナメル、 内エコロマック	根(1.5~2.5mmの砂利含む)	良(7.5W7/4)	60		
26	9-9 n27	2号墳 室内-表 面根付上層	鉄製品 割合	—	—	内エナメルが少 い	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	表裏敷面に青緑色の 鉛付着			
27	6-8	n27	2号墳 室内	鉄製品 割合	—	—	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	有機物付着 重量: 5g			
28	8-10	2号墳 室内	鉄製品 割合	—	—	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	有機物付着 重量: 5g				
29	6-10	n27	2号墳 室内中央 部	鉄製品 割合	—	—	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	重質: 2g			
30	9-8	n27	2号墳 室内	鉄製品 割合	—	—	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	重質: 16g			
31	6-9	n27	2号墳 室内	鉄製品 割合	—	—	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	根(2.5W5/6)			
32	8-9	n27	2号墳 室内	鉄製品 割合	—	—	根(2.5W5/6)	良(5W7/4)	80	重質: 2g			

第6表 遺物観察表 1

報告 番号	実測 番号	出土 位置	出土遺構	器種	測定値(cm)			調査技法の特徴		地土	焼成	色調	残存(%)	備考	
					口径	底径	高さ								
33	7-11	2号棟 玄室内	漆製品 漆かづ		残存高×幅×厚 7.1×1.0×0.3			-	-	-	-	3片に分かれている 黒褐色	6%		
34	3-2	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆瓶	6.2	-	18.05	薄口クロタケ、ビラン状浮文、 力文や横口(1~2mmの 砂粒含む)	良(ANS/1)	85					
35	3-1	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆瓶	9.9	-	8.3	漆(0.5~1mmの砂 粒含む)	良(ANS/1)	80					
36	4-4	o30	3号棟 玄室内	匁斗	直径 1.6	0.28~ 0.6	厚 0.1	-	-	黄(ANS/6.6)	完形	メノウ製 直筒14			
37	4-2	o30	3号棟 玄室内	ガラス製 小玉	径 0.55	孔径 0.1	厚 0.25	-	-	青	完形	直筒14			
38	4-1	o30	3号棟 玄室内	ガラス製 小玉	径 0.5	孔径 0.1	厚 0.25	-	-	黄(ANS/6)	完形	直筒14			
39	4-8	o30	3号棟 玄室内	ガラス製 小玉	径 0.5	孔径 0.1	厚 0.25	-	-	黄(ANS/6)	欠損 あり	直筒14			
40	4-15	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.9	0.4~ 0.5	厚 0.35~ 0.85	-	-	青(ANS/6.6)	-	2片に分かれている 直筒14			
41	4-11	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.85	0.2~ 0.3	厚 0.9	-	-	淡黄(ANS/4)	完形	直筒14			
42	4-10	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.9	0.25	厚 1.05	-	-	淡黄(ANS/6)	完形	直筒14			
43	4-9	o30	3号棟 玄室内	土製 瓶	径 0.9	0.11	厚 1.1	-	-	淡黄(ANS/6)	完形	直筒14			
44	4-3	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.8	0.25	厚 0.82	-	-	浅黄(ANS/3)	完形	直筒14			
45	4-7	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.6	0.15	厚 0.6	-	-	黄(ANS/7)	完形	直筒14			
46	4-11	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.7	0.1~ 0.13	厚 0.5	-	-	クリーパー黒 (ANS/1)	欠損 あり	直筒14			
47	4-12	o30	3号棟 玄室内	土製 土玉	径 0.7	0.19	厚 0.6	-	-	クリーパー黒 (ANS/1)	完形	直筒14			
48	4-6	o30	3号棟 玄室内	漆瓦	径 0.89	0.1~ 2.15	長 2.15	-	-	深緑	欠損 あり	直筒 直筒14			
49	4-5	o30	3号棟 玄室内	漆瓦	径 1.0	0.25~ 0.28	長 2.4	-	-	深緑	欠損 あり	直筒 直筒14			
50	9-10	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 7×3.0 断面(6)×9	-	-	-	-	-	青(ANS/6.6)	漆壺14			
51	6-1	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 7.5×3.0 断面(6)×9	-	-	-	-	-	直筒14				
52	6-2	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 7.5×3.0×0.6 内丸	-	-	-	-	-	直筒14				
53	5-9	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 5.7×3.0×0.7 内丸	-	-	-	-	-	直筒14				
54	5-8	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 5.6×3.0×0.4 内丸	-	-	-	-	-	直筒14				
55	5-10	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 5.6×3.0×0.3 内丸	-	-	-	-	-	直筒14				
56	5-11	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆壺	直径 2.6×0.9×0.3 内丸	-	-	-	-	-	切妻に沿う部分 直筒14				
57	5-5	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆身かづ	直径 3.1×1.2×0.3	-	-	-	-	-	片刃 直筒14				
58	8-4	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆身	直径 7.4×1.3×0.4	-	-	-	-	-	閉口左右対称 直筒14				
59	6-4	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆身	直径 1.8×0.9×0.2 内丸	-	-	-	-	-	直筒14				
60	5-7	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆身	直径 11.8×0.7×0.2 内丸	-	-	-	-	-	純白(ANS/1) 漆身				
61	9-2	p30	3号棟 地面塗装 東側	漆製品 漆不明	直径 3.2×0.8×0.3	-	-	-	-	-	中性色の可視性あり 黒褐色				
62	5-1-3	o30	3号棟 玄室内	漆製品 漆小刀	直径 17.9×4.0×0.1 内丸	-	-	-	-	-	木製部分のみ 直径4.0×0.1 内丸				

第6表 遺物観察表2

報告 番号	実測 番号	出土 位置	出土遺構	器種	測定値(cm)			調査技法の特徴		地土	焼成	色調	残存(%)	備考	
					口径	底径	高さ								
63	2-5	r34	4号棟 玄室内 東側床	漆製品 漆壺	直径 12	-	3.6	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(1~1.5cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	100				
64	2-6	t33	1号棟 高床室内 西側床	漆製品 漆壺	直径 10.8	-	-	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(0.5~2cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	30				
65	2-4	q34	4号棟 玄室内 西側床(4壁)	漆製品 漆壺	直径 8.4	-	2.85	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(1.5~2cm の砂粒多く含む)	良(ANS/5.5)	80				
66	2-1	n34	4号棟 玄室内 東側床(4壁)	漆製品 漆壺	直径 6.3	-	6.95	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(1.5~2cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	100	内側脚部がくくれあり			
67	2-2	q34	1号棟 玄室内 東側床(4壁)	漆製品 漆壺	直径 8.7	-	3.05	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(1~2cmの 砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	100				
68	2-3	n34	1号棟 玄室内 東側床(4壁)	漆製品 漆壺	直径 6.15	-	7.6	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(0.5~2cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	100				
69	11-3	n34	1号棟 玄室内 東側床(4壁)	漆製品 漆壺	直径 6.3	-	-	薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(0.5~0.6cm の砂粒多く含む)	良(ANS/5.5)	10	外側に自然軸から 手付により形状不規 則			
70	12-1	r33	4号棟 黒漆 漆壺	漆製品 漆壺	直径 12.5	-	5	薄口クロタケ、沈澱	小・中根(0.5~0.6cm の砂粒多く含む)	良(ANS/5.5)	10				
71	18-5	q34	4号棟 玄室内 東側床(4壁)	漆製品 漆壺	直径 7.7	-	5	薄口クロタケ、沈澱	小・中根(0.5~0.6cm の砂粒多く含む)	良(ANS/5.5)	80	外側に接合痕			
72	9-7	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直径 2.2×1.3×0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
73	8-8	q34	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直径 2.2×0.8×0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
74	6-6	q34	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直径 4.7×1.1×0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
75	6-6	q34	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直径 11.1×1.3×0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
76	11-12	q34	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直径 6.5×0.8×0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
77	8-3	r34	5号棟 梯	漆製品 漆刀子	直径 7.4×0.9×0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
78	6-7	n34	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直径 5.9×0.6×0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
79	8-5	r34	4号棟 玄室内 漆刀子	漆製品 漆刀子	直徑 5.1×3.0×0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
80	8-7	s38	5号棟 陶輪上	漆製品 漆刀子	直徑 1.9×0.9×0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
81	9-1	s36	5号棟 壁面漆	漆製品 漆刀子	直徑 1.3×0.7×0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
82	8-6	s38	5号棟 陶輪上	漆製品 漆刀子	直徑 8.7×1.1×0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
83	18-3	r32	8号棟 体北側 土師器	漆製品 漆刀子	直徑 4.1	-	-	角ケツリ・底密 薄口クロタケ、ロクロタケ	小・中根(0.2~0.5cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	80	内側に接合痕			
84	10-1	f32	8号棟 体北側 土師器	漆製品 漆刀子	直徑 5.1	-	-	角付(ボタル付) 薄口クロタケ、底密	小・中根(0.5~1cm の砂粒多く含む)	良(ANS/7.2)	60	内側脚部がくくれあり			
85	4-13	s37	2号棟 陶輪上	漆製品 漆刀子	直徑 5.1×2.65	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	
86	16-1	国4 北東村付近 1号土器	漆生土器 1号土器	直徑 13.7	-	-	-	角・縦目貝足添	小・中根(0.2~0.3cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.1)	10	縫合部			
87	17-2	SB	漆生土器 漆生土器	直徑 12.4	-	-	-	角・縦目貝足添	小・中根(1mm程度 の砂粒多く含む)	良(ANS/7.4)	10	縫合部			
88	21-3	s33	1号棟 陶輪上	漆製品 漆刀子	直徑 7.4	-	-	角・縦目貝足添	小・中根(0.5~0.6cm の砂粒多く含む)	良(ANS/6.6)	20	縫合部			
89	21-4	s35	4号棟 陶輪上	漆製品 漆刀子	直徑 5.3	-	-	角・縦目貝足添	小・中根(1~2mmの砂 粒多く含む)	良(ANS/6.1)	30	縫合部			
90	21-2	s34	1号棟 陶輪上	漆製品 漆刀子	直徑 7.6	-	-	角・縦目貝足添	小・中根(1~2mmの砂 粒多く含む)	良(ANS/6.1)	30	縫合部			
91	17-1	国4 北東村付近 1号土器	漆生土器 漆生土器	直徑 5.0	-	-	-	角・縦目貝足添	小・中根(1~2mmの砂 粒多く含む)	良(ANS/5.4)	30	縫合部			

第6表 遺物観察表3

III 自然科学分析

(1) はじめに

四日市市に所在する菅野古墳群から出土した耳環2点について、その材質を明らかにする為に以下の通り成分分析を行った。その結果を報告する。

(2) 資料

調査した資料は第7表に示す耳環2点である(写真①～④)

(3) 方法

資料の箔部分と芯部分の2か所で蛍光X線分析を行い、元素を同定した。装置はAMETEK製のエネルギー分散型蛍光X線分析装置SPECTRO MID EX04を用いた。

(4) 分析結果

成分分析結果のスペクトルを付す(図34～37)。第8表に分析結果一覧を示すが、その数値はあくまで参考にすぎない。

結果からNo.26耳環(箔)は主元素の銀(Ag)と金(Au)、水銀(Hg)が、No.26耳環(芯)は主元素の銅(Cu)と砒素(As)の他に、微量元素の鉛(Pb)、銀(Ag)、金(Au)が、No.50耳環(箔)は主元素の銀(Ag)と金(Au)、水銀(Hg)、銅(Cu)が、No.50耳環(芯)は主元素の銅(Cu)と砒素(As)の他に、微量元素の鉛(Fe)、鉛(Pb)、銀(Ag)、金(Au)が検出されている。

No.	出土位置	品名	概要
26	2号墳玄室～羨道境部上層	耳環	全体に土付着。表面はやや黒味がかった銀白色と金色がかった銀色がある。剥離部分に緑青が見られる
50	3号墳玄室A区	耳環	表面はやや金色がかった銀色の他にやや黒味がかった銀白色が見られる。剥離部分に緑青

第7表 資料表



① 2号墳 No. 26 耳環



② 2号墳No. 26 耳環X線画像
(90kV 1mA 1sec)



③ 3号墳No. 50 耳環



④ 3号墳No. 50 耳環X線画像
(90kV 1mA 1sec)

(計測位置： ←箔 ←芯)

元素	No.26 箔 (wt%)	No.26 芯 (wt%)	No.50 箔 (wt%)	No.50 芯 (wt%)
Fe	-	-	-	2.04
Cu	-	76.16	3.14	57.66
As	-	14.15	-	28.08
Ag	82.07	1.45	87.48	2.06
Au	10.21	0.48	4.97	0.99
Hg	4.80	-	2.50	-
Pb	-	3.89	-	3.79

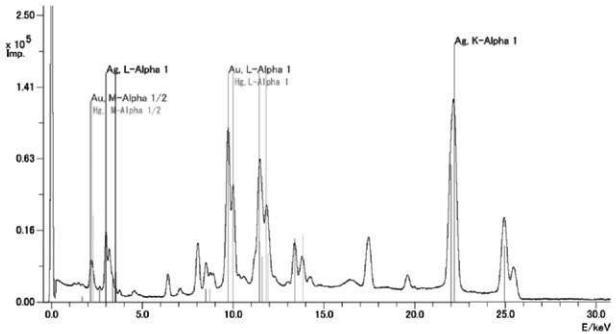
第8表 結果表

(5) 考察

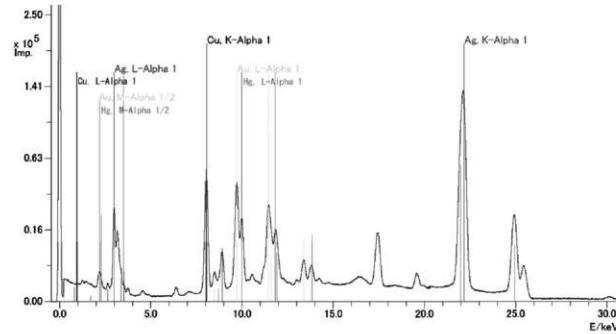
検出結果と得られたX線画像から、No.26とNo.50耳環の箔部分は、開口部端部のX線画像に映らない薄板の折込みが確認できる事と、金、水銀が検出されている事から銀板巻に金鍍金が施されたと推察される。No.26とNo.50耳環の芯部分は、検出元素から銅製品と考えられるが、溝通しを良くするために鉄造品に添加されている事が多い含有割合が高い砒素や鉛についての由来は不明である。金、銀については箔からの影響と考えられる。

以上の事からNo.26とNo.50耳環は銅芯銀板巻金鍍金の耳環であったと考えられる。

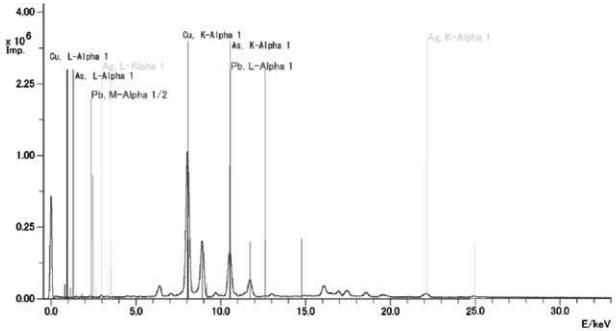
(吉田生物研究所)



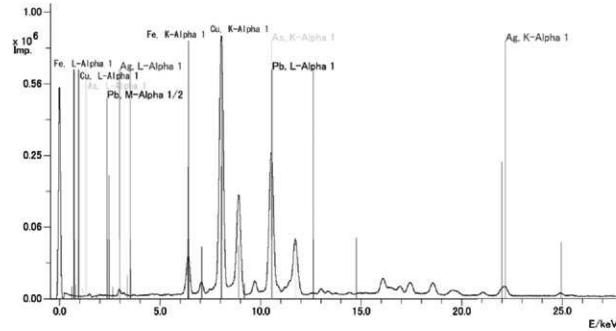
第34図 蛍光X線スペクトル図① No. 26 耳環（銀）



第36図 蛍光X線スペクトル図③ No. 50 耳環（銀）



第35図 蛍光X線スペクトル図② No. 26 耳環（金）



第37図 蛍光X線スペクトル図④ No. 50 耳環（金）

IV 結語

(1) 菅野遺跡の範囲と遺構について

今回の調査で、菅野遺跡が平成12年に実施された第1次調査で把握されていた範囲から大きく西側の丘陵上まで広がることを確認した(図1)。試掘調査の結果に基づいて菅野1号墳からみて北西側の一部を調査したところ、弥生土器片が多数検出された。しかし、明確に当該期のものと考えられる遺構は確認できなかつた。菅野1号墳の墳丘下に残っていた旧表土とその下の弥生期の包合層の厚さから考えると、現在までに相当量の土器片が流失していると考えられ、それに伴って遺構も多くが滅失してしまった可能性がある。遺物から見る丘陵上と丘陵下のものはいずれも弥生時代中期のものと考えられ、特に時期的な違いを見られないことから、この頃の集落は高所と低所に分かれて居住、または移動した可能性がある。

弥生時代の集落が廃絶したのち、古墳時代後期7世紀前半になって古墳群が営まれる。第1次調査では古墳時代の遺構は掘立柱建物を1棟検出しているのみであったが、今回の調査では、古墳群と同時期のものと考えられる窓穴住居SH7とその建て替えと考えられるSH8を検出している。ここから出土した須恵器は古墳群と同時期のものであり、古墳と住居が併存していた可能性がある。

古代以前については、今回の調査では生活的痕跡を思われるような遺構および遺物は、第1次調査時と同様に確認されなかった。

(2) 各古墳の築造時期について

今回の発掘調査では、調査前に確認されていた菅野1号墳に加え、2~6号墳を新たに検出し、調査を行った。各古墳から出土した遺物により、古墳群の築造時期が推定できるので、ここで改めてまとめておく。

菅野1号墳からは、土師器杯A・大型鉢・壺・瓶、須恵器台付提桶・蓋・平瓶・壺が出土し、これらはいずれも7世紀末頃のものと考えられる(図2)。1号墳は四日市市内で確認された横穴式石室墳としては最も新しい時期にあたるものと思われる。

菅野2号墳は、石室の遺存状態が著しく悪く、遺物は土師器甕・壺、耳環が出土したのみで遺物から築造

時期を明確にしがたい。3号墳と一部周溝を共有し、土層觀察では前後関係が見られなかつたことからすれば、後述する3号墳と近い時期ではないかと考えられる。

菅野3号墳からは、須恵器瓶・短頸壺、玉類、小刀が出土している。須恵器短頸壺は猿投窓瓶と推定され、H44号窓型式壺のものである。従って、7世紀前半の築造を推定できる。

菅野4号墳からは、須恵器杯・杯蓋・短頸壺・壺蓋、針が出土している。須恵器杯はH44号窓型式壺のものであるが、これは石室内ではなく墓道埋土中からの出土であるため、混入の可能性を排除できないが、石室の規模や構造が3号墳と類似することから、7世紀前半の築造と判断したい。

菅野5号墳については、周溝の他は主体部を部分的に調査したのみで、主体部も殆ど石室石材が抜き取られており、遺存状態が悪い。遺物は須恵器片と鉄織が出出土したのみで時期は確実にしがたい。4号墳と一部周溝を共有し、土層觀察では前後関係が見られなかつたことからすれば、3・4号墳と近い頃の築造ではないかと考えられる。

菅野6号墳は、調査した6基のうちで唯一石室を有しないのである。主体部から出土した遺物は須恵器平瓶と土師器碗があり、須恵器平瓶が117号窓型式壺のものであることから、7世紀第3四半期頃の築造と考えられる。

以上のことから、菅野古墳群は2~5号墳が7世紀前半、6号墳が7世紀第3四半期、1号墳が7世紀末に築造されたと考えられる。

(3) 菅野古墳群の石室石材について

菅野古墳群の中で最も新しい時期とされる1号墳の石室は、白色の花崗岩を主用している(図3)。これは石室石材が黒ないし鼠色のホルンフェルスを主体とする7世紀前半の菅野2~4号墳に対して、占地や石室構造において隔離があるようと思われる。また、使用石材の採取想定地を確認するため古墳群近傍を流れ内川部上流部を調査したところ、あくまで現状の河床であるが、1号墳側壁と同程度の花崗岩円礫・亜角礫は約8km遙かに辺りでなければ見られなかつた。また菅野古墳群については、古墳の立地論

に加えて、谷を挟んだ東に位置する山川古墳群との関係性、また分布調査によって発見された荒起古墳群との関係性など、検討するべきことは多い。今後も菅野遺跡・菅野古墳群をめぐる検討を続けながら、地域に根差した歴史の掘り起こしを目指していくたい。

(4) 周辺古墳群の築造時期について

菅野古墳群の近隣には、古くから知られるものほか、今回の太陽光発電所建設に伴う分布調査で新たに確認された古墳群がある。これらについて、確認のために記載しておく。

菅野古墳群の東側の谷を挟んだ丘陵上には4基からなる山川古墳群がある(図4)。2・3号墳は平成10・11年度に発掘調査を行っており、4号墳は今回の開発に伴う分布調査で新たに確認したものである。山川2号墳は削平が著しいが、方墳でおそらく石室を有しておらず、周溝から出土した須恵器により、6世紀中頃から7世紀前半の築造と考えられている。立地は南向きの緩斜面の中央に位置し、墳形は当地において少數である方墳であるといった点は菅野1号墳と共通する。山川2号墳から約15m北に築造された山川3号墳は方墳で、内部主体は木棺直葬であり、遺物は土師器杯Aと須恵器長頸壺、鉄釘が出土している。出土遺物から築造は8世紀初頭とされている。周辺古墳の築造時期から推測すると、菅野1号墳と近い時期である可能性を指摘しておきたい。

菅野古墳群の西方約250mには、5基からなる荒起古墳群がある。これは今回の開発に伴う分布調査で新たに確認したものである。1号墳は直径11mの円墳で、腰高の墳丘をもち、横穴式石室を有する可能性がある。2~5号墳は1号墳の周囲に、低墳丘のものである。詳細な時期が分かれる遺物はないが、立地から菅野古墳群の2~4号墳などと近い時期に造営された可能性がある。

(5) おわりに

今回の報告書刊行にあたっては、事実報告を述べることに努めるため、調査成果から見えてくる様々な課題点や意義については十分に踏み込めなかった点も多く残っている。例えば菅野遺跡では第1次調査時から確認されている弥生時代中期から古墳時代にかけての集落形態の変遷について、明確にできる資料は見られなかつた。また菅野古墳群については、古墳の立地論

に加えて、谷を挟んだ東に位置する山川古墳群との関係性、また分布調査によって発見された荒起古墳群との関係性など、検討するべきことは多い。今後も菅野遺跡・菅野古墳群をめぐる検討を続けながら、地域に根差した歴史の掘り起こしを目指していくたい。また今後、調査で得られた歴史的財産を公開・活用する機会を設け、広く市民の方々への周知に努めていきたい。

(1) ~ (4) 山本・(5) 堀内

【注】

- 『四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書27：菅野遺跡』2001 四日市市教育委員会
- (2)における土器類の年代観については三重県埋蔵文化財センターの水橋公恵氏に実見いただいた所見による。
- (3)における石室石材は三重県総合博物館の津村善博氏の鑑定によるものである。
- 『四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書24：山川遺跡・山川古墳群』2000 四日市市教育委員会



A地区全景（北西から）



B地区全景（北西から）

写真図版 2



S H 7 (東から)



S H 7 遺物出土状況 (南から)

写真図版 3



菅野 1 号墳 主体部 (南から)



菅野 1 号墳 石室中央東半土層断面 (南から)

写真図版 4



菅野 1号墳 出土状況 1 (西から)



菅野 1号墳 出土状況 2 (南から)

写真図版 5



菅野 2号墳 玄室 (南から)



菅野 3号墳 天井石撤去前 (北から)



菅野 3号墳 石室 (南から)

写真図版 6



菅野 4 号墳 石室（北から）



菅野 4 号墳 石室（南西から）



菅野 4 号墳 遺物出土状況

写真図版 7



菅野 5 号墳 主体部（西から）

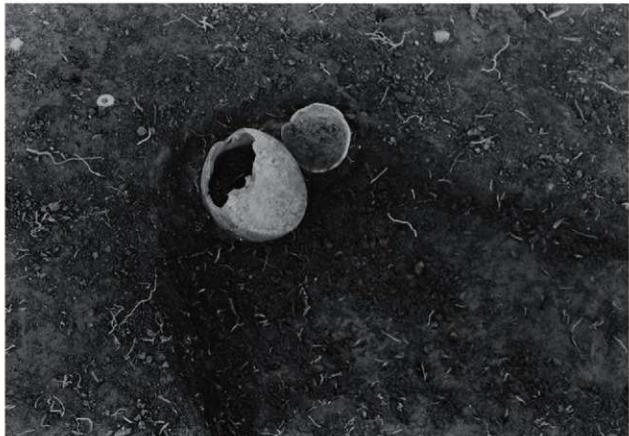


菅野 5 号墳 周溝断面（西から）

写真図版 8



菅野 6 号墳 (南から)



菅野 6 号墳 遺物出土状況 (南から)

写真図版 9



24



4号墳集合



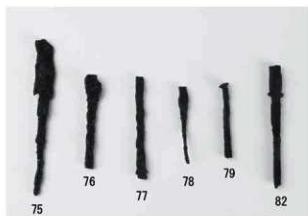
83



84



10



75

76

77

78

79

82



20

報告書抄録

ふりがな	たいようこうはつでんしょけんせつにともなうまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこく すがのいせき 2・すがのこふんぐん							
書名	太陽光発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 菅野遺跡2・菅野古墳群							
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	59							
編集者名	編集：堀内祐花 川崎志乃 執筆：山本達也 川崎志乃 堀内祐花							
編集機関	四日市市							
所在地	〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号 Tel059-354-8240							
発行年月日	2023年（令和5）年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
菅野遺跡・ 菅野古墳群	四日市市 貝町 字荒起	24202	207 586	34° 55' 33"	136° 33' 68"	20200716 ～ 20210302	4,772 m ²	太陽光発電 所建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
菅野遺跡・ 菅野古墳群	集落跡 古墳	旧石器時代、弥生時代、古墳時代	竪穴住居、土坑、方墳、円墳、溝	耳環、勾玉、管玉、弥生土器、土師器、須恵器、鉄製品				
要約	菅野遺跡・菅野古墳群は足見川と鎌谷川に挟まれた細長い台地上に位置する。菅野遺跡では弥生時代の土坑1基、古墳時代の竪穴住居が2棟と中世の溝が確認されている。主な出土遺物として、土器類（弥生土器・土師器・須恵器）や鉄製品（釣）がある。菅野古墳群では6基の古墳（方墳・円墳）が確認された。主な出土物としては、土器類（土師器・須恵器）、玉類（ガラス小玉・土玉、管玉）と鉄製品（耳環・小刀・刀子・鉄鏃）がある。							

四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書59
 太陽光発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
菅野遺跡2・菅野古墳群
 令和5年3月31日
 編集 四日市市
 発行 〒510-8601 四日市市諏訪町1-5
 印刷 岌山印刷